

未来構築—大阪 STRATEGY

ドローンショー・ジャパンと2025年日本国際博覧会共催で行われたドローンショウ。夜空に描かれたミヤクミヤク



インバウンド拡大で活気戻る

大阪は未来への都が期待される。市づくりに向けたちがいが響く。大阪駅前の再開発は完成に向急ピッチで工事が進み、万博会場の夢洲(ゆめしま)でも工事は佳境に入つた。インバウンド(訪日外国人)の増に達し、その数は18年間で活気を取り戻した。大阪が、発や2025大阪・関西博開催により、グローバル競争力を持つことは間違いないだろう。万博会場が再び地域経済をけん引していくこと期間中、約350万人

大阪の街中で外国人の姿が当たり前になり、コロナ禍前の観光の勢いが完全に戻った。関西国際空港のインバウンドの拡大が期待される。訪日外国人が来場する想定されているたんスフォーメーション(GX)、自動運転や空飛ぶクルマなど次世代モビリティといつた新しい産業が誕生する。企業やスタートアップ企業や自らを発信する大きな機会。大阪ヘルスケアパビリオンには37社が出演することが決まっている。



9月の先行まちびらきに向け、工事が急ピッチで進む「グラングリーン大阪」

スタートアップの活動も期待される。関西学といつた理系に強い國立大学が立地し、高度な科学的知見に基づくいわゆる「ディープテック」を武器にしたスタートアップも多数見られる。例えばEX-Fusion(エクスフェュージョン)は、大阪では9月、総面積が約9万1150平方メートルで、大阪府吹田市)は方針に及ぶ大利害開発、斐士街の淀屋橋で炉開発に取り組む。また2期地区「グラングリーン大阪」が先行ましては、京都府トロウエザー(京都府リーン大阪)が先行ましては、京大発、宇治市)は京大発、ちぢらきとなり、大阪500社と「ららぽーと再開発する。ドローン予定し、大型ターミナルの姿を大きく変える駅前の都市開発が大きくなり、25年に相次いで完成する。大阪の都心が化す風況計測装置を見られる。例えば(飛行ロボット)運航には不可欠の技術だ。では世界最大規模(約4万5000平方メートル)が成る。大阪の都心が

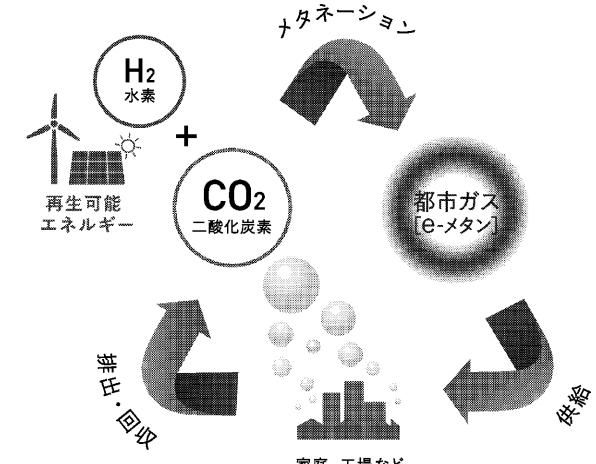
スタートアップ、デイーブテック武器に



大阪駅の玄関口も再開発が進む。都市開発の大きな転換点に

大阪特集

メタネーション。
CO₂をリサイクルして
未来の都市ガス「e-メタン」を
つくる技術です。



CO₂を増やすずに、エネルギーを使い続けられる社会を実現するために。Daigasグループは「メタネーション」の実用化を進めています。大気中に排出されるCO₂とクリーンな水素を反応させることで、未来の都市ガス「e-メタン」を生成し、ふたたびガスとして、お客様のもとにお届けできる。そんな明日がすぐそこまで来ています。

Daigas
Group

大阪ガスグループは、Daigasグループへ。

ぐっとそばで、ぐぐっとミライ。

都心部再開発のつち音響く—

